ラムで自立までの道のりを支えてい

生き方や働き方とリアルに接する機

で実践させていただき、 てのネックとなるので、 社会的な経験の不足が自立にあたっ

地域のなか いろいろな

「ひきこもりの人たちにとっては

一人ひとりに合わせたプログ

https://www.city.fussa.tokyo.jp



お話を伺いました

NPO法人 青少年自立援助センター 理事長 河野 久忠さん



ひきこもりなど様々な困難を有する若者向けの自立 を実施しているNPO法人青少年自立援助セン ほかにも福祉事業や生活困窮者の学習支援 海外にルーツのある若者への支援も展開しつつ、行 政からの受託事業も含めて幅広く関連付けながら支 援を展開している。



背景と課題を紐解き

立支援に取り組んでいます。

理事長

河野久忠さんにお話を伺いました。

〜困難を抱える若者・子どもの支援

日本全国を対象に若者の自

育少年自立援助センターは、

福生市に拠点を構えるNPO法人

見守る側に適切なアドバイスやサ 的支援と就労支援の間のサポートが あると、河野さんは言います。 ないこと、また、当事者の家族など、 化してしまう背景には、 延長線上でひきこもりとなった人た 代より不登校の子どもたちや、その 上の年齢層など、ひきこもりが長期 てきました。20~30代、またそれ以 そのご家族に向けた支援を続け 1999 (平成11)年に設立された がないことなどが要因として

中間の支援を私たちのような民間団 別相談や訪問支援のほか、 支援の窓口はハードルが高く、 いますが、根本的な解決にならない 多くは周囲の勧めで医療機関に向か こもりが長期化すればするほど就労 ことも多々あります。一方で、 文援プログラム (左下コラム参照) を 同センターでは、 宿泊型の

ターの利用者の実践的な学びの場と

か所ほどの受け入れ先があり、

セン

きます。現在、

福生市や他地域に20

連携の仕組みをつく 地域ぐるみで ひきこもりの自立を支援

に出て、社会との接点をつくって

が届かない人たちがいます。

必要であるにも関わらず適切な支援

者などの枠組みに入らず、

の交流など、ひきこもりのブランク 活リズムの改善や体力づくり、 で抜け落ちてしまった経験を埋めて 家族と離れて精神的自立を促し、 いきます。また、グループワークな 宿泊型の支援プログラムでは、

> ション(右下コラム参照)」や東岩 生労働省の「地域若者サポート

会があるのはとてもあり す」と河野さん。 また、公的なサポ 11

で

場が長期的に失われてしまう「ひき

様々な要因によって社会的参加の

解いて具体的な対応に結びつけ 間支援の橋渡しも担う同センタ け皿は充実してきたかに思えま 見守りや関わりで支えていく必 家族が支えて当たり前という認 長い時間をかけて構築してきま あります。要因や課題をきち けに背負わせるのではなく、 いまだに根強くありますが、 それでも「まだまだ不十分」と んは言います。公的なサポー 東京都ひきこもりサポートネ 「ひきこもりに限らず福祉領 国や自治体、民間支援団 無料で利用できる相談窓 ひきこもりに対する支援 地域の企業などとの連 地 域し す だけで民民 携 の口 が、

青少年自立援助センターの 泊型支援とは





家から出られない状態が続くと、

●生活改善:規則正しい生活リズムを身につけ、長期化 したひきこもりのために低下した体力を

取り戻します。

●他者との交流:生活のなかで他者と交流し、コミュニケー ションする力をつけていきます。

● 金 銭 管 理:自立後の生活に向け、必要経費の中で金銭

を管理する力を身につけます。

●帰属意識:役割をもって共同生活を送り、共同作業を通し て達成感や一体感を得られる場を提供します。

生活支援と同時に個々の特性に合わせそれぞれに必要な支援を提供

就労支援

就学支援

詳しくは ⊞ http://www.npo-ysc.jp

全国177か所で 地域若者サポートステー 働きたい若者を支援

15~49歳の、働くことに踏み出したい方や家族などを対象と した、厚生労働省委託の支援機関。全国に177か所あり、無料で 相談することができます(予約制)。このうち青少年自立援助セン ターでは多摩(福生市)、八王子、足立、板橋の4つの地域の施設を 運営。コミュニケーションやビジネスマナーの講座、職業体験や セミナーなども実施。本人の「働き出す力」を引き出し、「職場定着 するまで」を全面的にバックアップしています。

詳しくは ⊞ https://saposute-net.mhlw.go.jp